

牛久市文化財保護審議委員 栗原 功

# 小川芋銭の句碑(銚子市・牛久市)と歌碑(福島市)①

## 太平洋を臨む

### 銚子市海鹿島に建つ句碑

小川芋銭の芸術は河童百図、日本画、独自の画境・新南画、漫画・挿絵、俳誌表紙画、俳画など多岐にわたっていた。

野口雨情が

『小川芋銭先生

は絵を描く芭蕉』

と称えた

芋銭芸術には俳句づくり

もあった。芋銭が生涯によ

んだ句は2000首に及ぶ。

芋銭は晩年、毎年のように

千葉県銚子市の海鹿島の

別荘(潮光庵)に滞留し、昭和

8年(1933年)の12月

23日に天皇陛下がお生まれ

になられた時も銚子に滞在

していた。

その時の喜びを、

大海を

飛びいつる如と

初日の出

とよんだ。



句碑

『大海を飛びいつる如と初日の出』

昭和26年(1951年)建碑

所在地・銚子市海鹿島

写真提供・一般社団法人銚子市観光協会



小川芋銭句碑

『五月雨や月夜に似たる沼明り』

昭和63年2月11日から17日まで小川芋銭生誕120年記念祭が行われ、その一端としてこの句碑が建立された。芋銭旅行地の一つである北海道の日高石で、青銅色の石碑である。所在地は牛久沼畔の牛久市三日月橋生涯学習センター構内。

広報うしく10月1日号当コーナーにおいて、表記に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

**訂正箇所** 写真説明文「昭和60年3月14日～9月16日まで、つくば市で『国際科学技術博覧会(略称科学万博)』が開催された。」

**正しくは** 昭和60年3月17日～9月16日

野口雨情は、明治15年(1

882年。芋銭は慶応4年

～1868年。この年明治

に改元される。生まれ)茨

城県多賀郡北中郷村磯原

(現・北茨城市)で生まれた。

雨情は、『七つの子』を作詩

し、当時の世相をうたった

『船頭小唄(大正10年(19

21年)から12年にかけて

流行)』を作詩した。

その雨情は昭和12年(1

937年)6月の談話の中で、

『私が小川芋銭先生を

知ったのは、絵かきとして

よりもむしろ「俳人」として

だった。その芋銭先生と私

の出会いには明治32年(18

99年)ごろのこと、井野

村(現・取手市)の普門院と

いうお寺で開かれた俳句会

の席上だった。従って、私

は、芋銭先生を「牛里」とい

う俳号をもつ俳人と思い画

家だとは思わなかった。』

と語っている。

雨情は芋銭との思い出を

次のようにも語っている。

私が小川先生に最初にお

目にかかったのは、水戸の

停車場(駅をさす)から乗っ

た汽車の中だった。

その時の風さいから小川

先生は画家に見えなかった。

車中で小川先生は酒をと

りだしてしきりに飲んでい

た。

私にも、

『酒はどうです』

と、すすめてくれた。

それから牛久駅で下車す

るまで、小川先生は、いろ

んな話をしてくださった。

俳句や絵の話、それに

まは絵を専門に描いている

などだった。